



友だち

前号の最後のところで、H先生は「日比谷のイイところは友だちだからね。」と発言していた。以前紹介したケツメイシの「友よ」の歌詞には、「何十年先も 君を友達って思ってる」とあった。しかし「何十年先も」友だちと思えるような人に出会うには、やはり「何十年」もかかるのだろうか。

*

私が今まで読んで来た本の中で、最も面白いと思ったものの一つに、岸田秀『ものぐさ精神分析』（中公文庫）がある。私が読んだのは大学1年の時で、（今ではだいぶランクが下がったが）当時は推薦に値する本No.1だと感じていた。

精神分析については、興味のある人はネットなどで調べてほしいが、人間の理性ではコントロールできない「無意識」の領域を仮定して、人間の心理を研究・分析する学問である。創始者はオーストリア人のフロイトで、『精神分析入門』『夢判断』といった著作がある。どちらも新潮文庫から出ていて、前者は比較的読みやすい。このフロイトの学派に属するのが岸田先生である。『ものぐさ精神分析』には、硬い論文調のものから、柔らかなエッセイそのものといったものまでが収められている。

で、何で私がこの本に惹かれたのかというと、一つには「モノの見方を逆転することの面白さ」を教えられたからである。

例えば、人から「お前はケチだ、ケチだ」と言われて悩んでいる人がいるとする。ところが、岸田先生に言わせると、「ケチだ、ケチだ」と言われている人がケチなのではなく、その人のことを「ケチだ、ケチだ」と言って

いる人の方が「欲張り」なのだ、ということになる。つまり、相手をケチだと言うのは、相手に対するある要求水準があって、その水準に到達しない場合であり、とすれば、相手への要求水準が高い人ほど、つまり、欲張りな人ほど相手をケチ扱いすることになる、というのである。

どう？ 私は一つの見方としてとても面白いと思う。

*

その岸田先生は、こんなこともおっしゃっている。恋人が欲しいからといって、化粧をしたりイイ服を着たりして自分を飾るとすれば、化粧や服といった外面で人間を判断するような人、つまり化粧や服に「つられる（騙される）」レベルの人が恋人になる。人の尊敬を勝ち得ようとして、お金をばらまくとしたら、お金に左右されるようなレベルの人たちからだけ尊敬されるようになる…。なるほど、その通りかも知れない。

もう分かると思うが、本当の友だちが欲しいと思ったら、まず自分自身が「誰かにとってのイイ友だちである」ように過ごすことが必要なのである。あなたが「誰かにとってのイイ友だちである」ように過ごしていくなら、いつの間にか、あなたの側には「何十年先も」友だちとして付き合っていけるような素敵な友だちがたたずんでいるに違いない。

表面を飾ったり、流行を追って人に合わせたりする必要はない。そんなレベルで付き合う友だちが欲しいのではないはずだ。イイ友だちを得るには、まずは自分自身をしっかり見つめること。そして、慌てないことだ。